

令和5年度 第2回藤沢市教育振興基本計画評価委員会 議事録

日時 2023年（令和5年）8月4日（金）
午後3時00分～午後4時06分
場所 藤沢市役所 3階 3-3会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

（1）教育振興基本計画点検・評価 重点事業に係る講評

（2）教育振興基本計画の5つの基本方針ごとの講評

（3）教育委員会への総括的講評

3 その他

4 閉 会

1 開 会

○藤井委員長　それでは、ただいまから「令和5年度第2回藤沢市教育振興基本計画評価委員会」を開会いたします。

お手元の「次第」に沿いまして、議事を進めてまいりたいと思います。

最初に事務局から、資料の説明をお願いします。

○事務局（近藤指導主事）　本日の資料でございますが、「次第」が表紙になっておりますホチキスどめの資料、19ページまでのものがございます。

また、各委員におかれましては、第1回評価委員会で配付をしております **資料2**「令和5年度（令和4年度実績）藤沢市教育振興基本計画 全事業実績報告書～基本方針順～」をご持参いただいております。

事務局からの説明は、以上でございます。

○藤井委員長　事務局からの説明が終わりました。皆様、よろしいでしょうか。

（資料不足等：なし）

2 議 題

（1）教育振興基本計画点検・評価 重点事業に係る講評

○藤井委員長　それでは、議題（1）「教育振興基本計画点検・評価 重点事業に係る講評」から始めます。資料の1ページとなります。

初めに、講評の流れについて確認してまいります。

令和5年度の点検・評価 重点事業につきましては、第1回評価委員会での質疑応答などを踏まえ、次の3つの観点から講評を行います。

1点目、取組計画が教育振興基本計画における目的や方向性に合致しているか。

2点目、取組実績に対して、課題の捉え方は適切か。

3点目、今後の取組についての考え方は適切か。

その後、各委員からの講評を受けて、事業担当課には、今後の方向性をお話いただくこととなります。

<事業コード145「学習支援事業」>

○藤井委員長　それでは、事業コード145「学習支援事業」について、各委員から講評を行います。まず、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員　学習支援授業については、中学校における不登校生徒への支援、また、小学校における支援の試行など、きめ細かく実施されていることがわかりました。

学習指導員の確保については、苦労が大変多いと思います。地域の人材の支援を受けやすくするためにも、今、広がりつつあるコミュニティー・スクール等を活用して、学校と地域とのコミュニケーションを活発にして、情報とか課題を共有することで多くの人材が確保されることを期待しております。

ほかの課題にも共通なので補足をさせていただきますと、私は、大清水中学校のコミュニティー・スクールの取りまとめ役をやっているのですが、先日、会議がありまして、校長先生から、人材（先生）不足ということで、野球部の指導をする方がいらっしゃらない、困りました、とい

う話がありまして、たまたまメンバーに、すぐ隣の県立清流高校の校長先生がいらっしゃって、それだったら、清流高校に野球の指導ができる先生が何人かいるからどうですかと、毎日ではないにしても、そういう指導をしてあげることができるかもしれないということで、コミ・スクで、そういう具体的な課題について、みんなで認識し合って、最終的に解決したかどうか、結果的にどうなったかわかりませんが、そういう提案が出されて、地域と学校の課題を、みんなで共通認識を持って何とかならないだろうかと、こういうことで一つの組織（コミ・スク）が、まあなかなかうまくいくわけではないのですが、ちょっと期待が持てるかなと思いました。

具体的な話として、参考までにお話しいたしました。

○越 委員 例年の課題となっている各校の学習指導員の確保について、主に各校内での紹介ということで、確かな人材の確保ができていることがよくわかりました。

そして、人材確保という観点から、今後も引き続き『広報ふじさわ』やホームページなどで、たくさんの方の目にとまる掲載に努めていただくことを期待します。

学習支援の形式は、児童生徒一人ひとりのニーズに合わせ、放課後や長期休暇中だけでなく、授業中にも支援をしたいという意向はとてもよいと思いました。

中学校の不登校生徒学習支援事業を設置したことで、多種多様な学びの場の一つとして、また、学びだけではなく登校の意欲が育ち、登校のきっかけになることを期待します。

○渡邊副委員長 「学習支援事業」は、施策の柱「一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の推進」に貢献していると評価いたします。

質疑を通じて、児童生徒のニーズに合わせた体制整備が進んでいる様子が確認できました。小学校に関しては、令和4年度に試行し、5年度から実際に動き始めるとのことですが、今現在、私自身が大学で数理系科目を幾つか教えているのですが、その中で、学生の様子を見ると、小学校の算数の理解がおろそかになってしまっていて、算数・数学に苦手意識を持ち、その後、中学校・高校で、特に克服することも積み上げることもなく、そのまま大学まで来てしまった学生というのも多数おりますので、小学生のうちに疑問点を解消することは、その後の学びを考えても、特に重要だと考えています。

したがって、こうした小学校の学習支援事業のあり方には、大いに期待したいと考えています。

○藤井委員長 施策の柱である「一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の推進」に貢献していると思います。

報告からは、小学校・中学校ともに一人ひとりの子どもたちの学習支援を放課後や夏季休業中に個別対応として実施しており、積極的に取り組まれていることがわかりました。また、中学校での不登校生徒学習支援事業として、授業時間でも実施できるように進めていることもわかりました。

他方で、「藤沢市中学校学習支援事業実施要綱」、「藤沢市中学校不登校生徒学習支援事業実施要綱」に基づきますと、学習指導員の教員免許所持者の確認が曖昧であることは気になりました。今後、検討いただければと思います。

また、小学校での学習支援が全ての学校で実施できていないとのことでしたので、規模拡大が

実現されることを願っております。

今後も、小学校・中学校における学習支援の充実に積極的に取り組み、一人ひとりの学力の定着に貢献する学習支援を期待しております。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

各委員からの講評が終わりました。これを受けて、事業担当課から、今後の方向性などをお話しいただきたいと思っております。

それでは、教育指導課から、よろしく願いいたします。

○教育指導課（丸谷課長） 「藤沢市小中学校学習支援事業」においては、放課後や長期休業中を利用して、児童生徒の学力の定着を図れるよう引き続き取り組んでまいります。

特に小学校におきましては、本事業を実施する学校が拡大するよう、その授業時間中にも学習支援ができるような弾力的な運用について検討し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育の推進に努めてまいります。

また、「藤沢市中学校不登校生徒学習支援事業」においては、不登校生徒の学びの場や居場所づくりとして、さらなる支援を進めてまいります。

○藤井委員長 ありがとうございます。

<事業コード 231「特別支援教育整備事業」>

○藤井委員長 続きまして、事業コード 231「特別支援教育整備事業」につきまして、各委員から講評を行います。まず、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員 全国的に児童生徒数の減少傾向があるようではございますけれども、特別支援学級に在籍する対象の児童生徒は、この間のお話ですと、年々増えているというお話がありました。

増えた理由はいろいろあるのでしょうかから、簡単に分析できることではないと思いますが、いずれにせよ増加が考えられるとしたら、特別支援学級の増設、それから、対象の児童生徒の特性に合った指導、そういったことができる教員の養成、先生方に頑張っていただかなければいけないということで、増加が見込める、考えられるということですから、その増設はともかく、内容的に先生が一番大事でしょうということで、そういう方の養成に、ぜひ力を入れていただきたいと思っております。

○越 委員 特別支援学級の設置について、毎年2校ずつを目標とされていることと、そして、それが実績となっていることは、大変すばらしいと思われました。

特別支援学級の対象児童生徒が年々増えていること、また、通級指導教室の取り組みにおいても、聞こえや言葉に課題を持っている子どもが多いことから、今後のさらなる教員、教室不足が課題となることが想定されると思っておりますので、そこも視野に入れ、白浜養護学校の改善方策同様、藤沢市学校適正規模・適正配置検討委員会での協議が必要になるのかなと感じました。

施策の柱である、「学びを支える質の高い教育環境整備」ということから、各校の特別支援学級の設置は、通常級の児童生徒はもちろん、保護者にとっても大きな学びとなります。違いを認め合う環境で過ごすことにより、自然に多様性を受け入れることができるようになる等、そんな環境が当たり前となるよう、教育環境の整備に期待します。

○渡邊副委員長 「特別支援教育整備事業」は、施策の柱「学びを支える質の高い教育環境の

整備」に貢献していると評価いたします。

質疑の中で明らかになったように、対象となる児童生徒が増える傾向にあり、今後ますます事業の重要性は増すと考えられます。

一方で、教室や教員の確保には課題があるとのことですので、単純に事業を拡大していくのは難しいとは思いますが、引き続き事業の充実をお願いしたいと思います。

○藤井委員長 施策の柱である「学びを支える質の高い教育環境の整備」に貢献していると思います。

報告からは、将来的に全ての小学校・中学校で特別支援学級の設置が目標とされていることがわかりました。また、事業の実施において、教室の確保だけではなく教員不足の課題もあることもわかりました。

通級指導教室においては、必要に応じて対応する方向であることがわかりました。そのため、通級指導教室におきましては、多様な声を拾い、全ての子どもが安心して学べる環境づくりを進めてほしいと思います。

今後も、特別支援教育の充実に積極的に取り組み、不安を解消する方向へ向かう学びを支える学校づくりを期待しています。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○藤井委員長 各委員からの講評が終わりました。これを受けて教育指導課から、今後の方向性などをお話してください。

○教育指導課（丸谷課長） 障がいのあるなしにかかわらず児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う等、藤沢の支援教育の、より一層の充実に向けまして、全ての児童生徒が、できるだけ同じ場で、ともに学ぶことを追求するとともに、特別な支援を必要とする児童生徒に対しては、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室など、さまざまな学びの場を整え、学習環境を選択できるようにしております。

その中でも、特別支援学級を全ての小中学校に設置することを目指し、引き続き教育環境の整備を進めていくとともに、支援教育に係る人材の育成にも努めてまいります。

○藤井委員長 ありがとうございました。

<事業コード 531-1「いじめ防止啓発関連事業」>

○藤井委員長 続きまして、事業コード 531-1「いじめ防止啓発関連事業」について、各委員から講評を行います。まず、安藤委員からお願いします。

○安藤委員 この間、いろいろお聞きしまして、いじめ防止啓発パンフレットの配布、それから報告書「Stop いじめ!中学生の集い in ふじさわ」等の開催を通して、市内の中学生がいじめについて話し合う機会が提供されているという、そのいろいろな報告をお聞きすると、多彩な活動が行われていることがよくわかりました。

大清水中学校で、実際に生徒会の生徒たちに、どうだったと聞きまして、それぞれの視点で、自分たちの問題として対策を立てている、それぞれ視点の違った対策を立てている様子が見られたなど、これは、大変いいことではないかと思いました。

今後も、こういう施策を続けながら、地道に「いじめ防止」について、自分ごととして考えら

れるような意識、そういったものが醸成されればすごくいいのではないかと思います。

○越 委員 いじめ防止啓発リーフレットの作成や配布、リーフレットの内容の検討などを課題に取り上げ、進めていることが実績報告書からよくわかりました。

このリーフレットが、実際の学校現場においてきちんとした意味のある使い方がされているか、いま一度、周知が必要と考えます。

いじめ防止対策は、学校や教育関連のさまざまな機関で取り組むことはもちろんですが、地域や家庭教育も欠かせないものと思います。いじめ啓発の講演会などが、年間かなりの頻度で開催されていることを知りました。この貴重な機会を、児童生徒の一番身近にいる保護者への参加募集を積極的に行うとよいと思います。

また、課題を踏まえた今後の取り組みに、「Stop いじめ!中学生の集い in ふじさわ」を通して、小中の連携を図れるよう小学校への周知に努める、とありますが、とても興味のあるよい取り組みだと思しますので、ぜひとも実現していただきたいと願います。

○渡邊副委員長 「いじめ防止啓発関連事業」は、施策の柱「互いの違いを認め合う共生社会を目指し、多様なニーズに応える学習機会の提供」に貢献していると評価いたします。

質疑を通じて、多くの生徒を巻き込んだ活動が実施されている様子わかりました。いじめの問題を中学生が自らの問題として捉える上で非常に重要な試みだと思しますので、課題とされていた生徒の自主的な取り組みを、今以上に奨励することを含め、引き続き実施してもらいたいと考えております。

○藤井委員長 施策の柱である「互いの違いを認め合う共生社会を目指し、多様なニーズに応じる学習機会の提供」に貢献していると思います。

報告からは、児童相談所や警察などのさまざまな機関と連携しながら、年に数回のいじめ対策協議会を実施していることがわかりました。

また、本事業が教員にとっても意味のあったことが報告され、学校教育の安全を構築することに関与していることがわかりました。

他方で、リーフレット類は配布するだけで終わりではなく、実際に目にとまり、連絡相談につながるための工夫も必要であると感じました。例えばQRコードを掲載することや、最初に連絡する（あるいは最もつながりやすい）電話番号を大きな文字にするなど、伝わりやすくする工夫ということです。

今後も、全ての子ども・若者のセーフティを構築することに貢献し、いじめ防止啓発に関する事業を継続的に行ってほしいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○藤井委員長 各委員からの講評が終了しました。

これを受けて、教育指導課から、今後の方向性などをお話してください。

○教育指導課（丸谷課長） いじめ防止啓発リーフレットにつきましては、児童生徒及び保護者に活用されるよう、新入学あるいは人権週間等の時期に合わせて配布するとともに、活用事例やワークシートも添付することで、事業などで活用できるように送付しているところです。

今後も広く啓発につながるよう、内容や紙面の工夫に努めてまいります。

生徒主体の活動である「Stop いじめ!中学生の集い in ふじさわ」での意見交換や、情報共有の内容が、各校での実践に結びつくように支援するとともに、小中連携も今後の課題として取り組んでまいります。

引き続き学校・家庭・地域、教育委員会の関係機関等が連携・協力し、いじめ防止対策を進め、魅力ある学校づくりを推進してまいります。

○藤井委員長 ありがとうございました。

これで、「教育振興基本計画 点検・評価 重点事業に係る講評」と、担当課からの発言が終わりました。

委員の皆様から、追加で何かございますか。

(発言等：なし)

特にないということでございます。

(2) 教育振興基本計画の5つの基本方針ごとの講評

○藤井委員長 それでは、議題(2)「教育振興基本計画の5つの基本方針ごとの講評」に移ります。資料の7ページです。

「第3期藤沢市教育振興基本計画」には、基本方針が5つございますが、この基本方針ごとに令和4年度実績の講評をしてまいります。

なお、講評については、「基本方針1」から順番に行っていきます。

<基本方針1 ともに学び多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します>

○藤井委員長 それでは、「基本方針1 ともに学び、多くの人とかかわり合いながら自立する子どもを育成します」の講評について、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員 基本方針1の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱の事業が、おおむね目標を達成されていることを評価いたします。

前年度と比較しても、自己評価のランクCがなくなってランクBが増えたことは、大変喜ばしいことだと思います。コロナ禍の影響が残る中で、諸事業を進めるに当たっては、多分、相当困難もあったと思いますが、努力と工夫の結果が、実績としてあらわれているのではないかと思います。

事業コード127「中学校部活動関係事業」についてですが、これも、たしかCランクがBランクになって、指導員の配置が増えたことは、相当頑張っておられると思います。指導員の人材確保は、「頑張ってください」程度で済めば簡単な話ですけれども、なかなか大変なことだと思います。

我々も地域活動をしていますので、先ほどちょっと例をお話ししましたように、いろいろな課題を具体的にみんなで共有する中から、地域の力を借りて、こんな人がいるよということで人材を探して、その方にやっていただくことができれば、それは非常にいいことだと思いますので、そういった努力を続けていただければと思います。

○越 委員 基本方針1の29の事業のうち28事業が、おおむね目標を達成しており、一つ一つの事業がしっかりと進められていることがわかりました。

施策の柱である「豊かな心を育む教育推進」においては、目標を上回ったということで、昨年、

目標を達成できなかつたと評価をされたことを意識され、より一層工夫を凝らし、事業を向上させようと努力されたことがわかりました。

事業コード 123-2 の「環境教育推進事業」においては、毎年成果を上げており、取組実績を見ると、コロナ禍においても、感染防止対策を徹底し体験学習をされたこと、この事業にかかわった方々の努力に感謝いたします。

日々の生活の中で切り離すことができないごみの排出という問題では、幼少期から学童期の子どもたちへの学習会は、工夫が必要だったと思います。今後は、地球の温暖化を取り入れた学習会の向上に期待します。

○渡邊副委員長 基本方針 1 の事業実績全般を踏まえ、各施策の柱を支える事業がきちんと実施されていると評価いたします。

過年度で、自己評価が唯一 C であった事業コード 127 の「中学校部活動関係事業」、133 の「中学校部活動関係事業（再掲）」についても、今年度（令和 4 年度）は目標を達成し、全ての事業につき自己評価 B 以上を実現することとなりました。

新型コロナウイルス感染症の流行についても見通しが立てづらい中、多くの事業で困難に直面しながらも、着実に事業を進めてきたものと考えられます。

引き続き子どもの学びの環境が充実することを期待いたします。

○藤井委員長 全体の 29 事業中、おおむね目標を達成した事業（自己評価 B）が 28 事業となっております。各施策の柱を支える事業がとても順調に進められていることがわかりました。

昨年度、自己評価 C だった事業が、1 名増で部活指導員を配置できたことにより自己評価で B となっております。

また、施策の柱 3 「豊かな心を育む教育の推進」の一つが、白浜養護学校からの依頼を受けて事業が開催され、目標値を上回ったことから自己評価 A となっております。これからも、多様な子どもたちが学べるための取り組みを積極的に続けてほしいと思います。

全体を通して、少しずつコロナ禍から脱している様子が見えてきました。他方で、コロナ禍の影響を受けにくい実施方法については、今後も、状況が変わったとしても継続できることがあると思いますので、事業内容や効果を踏まえて多様な実施方法の継続を検討していただけたらと思います。

また、情報発信と広報が取組実績に影響すると思われましたので、必要としているところにアプローチできるような工夫を通して、一人ひとりの子どもの教育環境が、より充実することを願っております。

<基本方針 2 安全・安心で学びを支える学校づくりを進めます>

○藤井委員長 それでは続けて、次に、「基本方針 2 安全・安心で学びを支える学校づくりを進めます」の講評について、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員 基本方針 2 の事業実績全般を踏まえて、評価 C がなくなって B になり、各施策の柱の事業がおおむね目標を達成できていることは評価をいたします。

事業コード 211 「防災教育推進事業」、213 「救命普及啓発推進事業」については、前年度コロナ禍で実施できなかった事業が実施されたことは、大変よかったと思っております。

この事業は、防災・救命教育の実践的な内容ですので、今後起こり得る災害、緊急事態に備えて、生徒たちに体験を通じて、こういったものの意識を植えつけていくことは大変大事ではないかと思っておりますので、これからも、この実践的な事業、教育はぜひお願いしたいと思っております。

○越 委員 基本方針2の18の事業中、全ての事業においてB評価であり、目標を達成しており、順調に事業が進められていることがわかりました。

「安全・安心で学びを支える学校づくり」ということで、一番重要であり基本的なことではありますが、一人ひとりの意識が大切だと思っております。

事業コード213-2の「救命普及啓発推進事業」においては、新型コロナウイルス感染症により、救命講習ができなかった数年を取り戻すため、代替手法での実施から、希望があった中学校への救命講習を行うなど、手厚い取り組みをされていることがわかりました。

現在、あらゆる場所にAEDが設置されていますが、あっても使用できないではなく、緊急時に正しい応急手当ができる教育を目指し、今後も引き続き取り組んでくださることを期待します。

○渡邊副委員長 基本方針2の事業実績全般を踏まえ、各施策の柱を支える事業がきちんと実施されていると評価いたします。

昨年度は実施できなかった事業コード211-2「防災教育推進事業」や、213-2「救命普及啓発推進事業」も、新型コロナウイルス感染症の流行状況が落ち着く中で、実際に講習を実施できたことが確認できました。しかし、感染症に関して言いますと、感染症の感染力そのものが下がったわけでもないことから、今後も流行状況とのバランスを踏まえながら講習を実施してほしいと考えております。

加えて事業コード232「学校ICT環境整備事業」についてですが、こちらは、児童生徒・教員への機器の普及が終わり、これから活用していく段階ということかと思っておりますが、その課題の中で、「ICTについて学ぶ時間が取りにくい」という項目、記述がありましたので、こちらの課題につきましては、教員の働き方（ワーク・ライフ・バランス）の問題と併せて改善をしていかなければいけないポイントかなと思っておりますので、事業単体というよりは、教員の働き方を含めた今後の改善を期待いたします。

○藤井委員長 全体の18事業中、おおむね目標を達成した事業（自己評価B）が全18事業となっており、各施策の柱を支える事業がとても順調に進められていることがわかりました。

昨年度、自己評価Cだった事業（施策の柱1「命を守る教育の推進」）は、計画どおり進めることができたり、希望する学校で事業が実施できたりしたことなどから、自己評価Bとなっております。

それらの事業において、「課題を踏まえた今後の取組」からは、全ての子どもにかかわる事業であるという認識に基づき、より広く働きかけ、偏りなく実施しようとする姿勢を感じました。

どの事業も、とても大切な取り組みだと思っておりますので、全ての事業において、「課題を踏まえた今後の取組」の記載を確実に実施できることを願っております。

<基本方針3 子どもたちの健やかな成長を支えるため、学校・家庭・地域の連携・協働を進めます>

○藤井委員長 次に「基本方針3 子どもたちの健やかな成長を支えるため、学校・家庭・地

域の連携・協働を進めます」の講評について、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員 基本方針3の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱の事業がおおむね目標を達成されていることを評価いたします。

事業コード315「地域の縁側事業」については、コロナ禍の影響で思うように進められない状況があったとお聞きしておりますが、交流会の実施、それから新規団体の募集等、前向きに取り組まれていることを評価いたします。

ただし、課題にもあるように、一旦中断してモチベーションが下がったものをもとに戻すのは、そう簡単なことではなく、困難だと思います。あまり無理をせず少しずつ事業の知名度を上げて、一人でも多くの方が、その事業に賛同してもらえるような施策が必要になってくると思います。

それから、事業コード321「学校・家庭・地域連携協力体制推進事業」についてですが、私も、まさにこれの三者連携事業をやっているわけですけれども、先ほどもちょっとお話したように、学校運営協議会、いわゆるコミ・スクの設置が進んで、これはこれで意味がある会議だと思えますが、今進めている三者連携事業と、学校運営協議会の連携なのか合同なのかよくわかりませんが、我々のやっていることの位置づけというのも、ちょっと難しくなってきました。まあいいことだからやればいいじゃないのということもありますが、そういったことで連携も、地域の特性、実情も地域によっていろいろ違いますから、それぞれの実情を見つめつつ、具体的にどのように進めていくか、我々も模索中ということになりますけれども、ぜひ一層のご支援をいただければと思います。

○越 委員 基本方針3の13の事業のうち11事業が目標を達成しており、一つ一つの事業がしっかり進められていることがわかりました。

事業コード327の「思春期健康教育事業」では、昨年度のC評価からA評価に向上しており、課題とされていた対面以外での開催方法の工夫や、関係機関及び学科への周知の拡充などを実施したことによる成果だと思います。

課題とされている、依頼のない教育機関のニーズの把握を望みます。施策の柱である「学校・家庭・地域等の連携・協働」は、子どもの健やかな成長に欠かせないものだと思います。より多くの人たちがともに学び、子どもたちの支援ができるよう、講演会事業の周知を引き続きお願いいたします。

○渡邊副委員長 基本方針3の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱を支える事業がきちんと実施されていると評価いたします。

多くの事業が、感染症対策を講じながら事業を着実に推進してきた様子が確認できました。一方で、スタッフや担い手の不足を課題として挙げる事業も多く、今後の活動を継続するためにも、参加者のモチベーションを含めた人手不足への対策をお願いしたいと考えております。

○藤井委員長 全体の13事業中、おおむね目標を達成した事業（自己評価B）が11事業となっており、各施策の柱を支える事業が順調に進められていることがわかりました。

他方で、施策の柱2「学校・家庭・地域等の連携・協働の推進」の一つの事業が自己評価Cとなっており、昨年度と同様の評価でしたが、もう一つの事業においては、昨年度の自己評価Cか

ら自己評価Aとなっておりました。こちらの事業は、目標値を上回ったことにより自己評価Aとなっており、実施方法が工夫されているとともに、養護教諭を含めた連携の可能性を、事業の内容に感じました。

「課題を踏まえた今後の取組」に記載されていますように、依頼のない教育機関のニーズのすくい上げなど、より広く子どもの成長を支えることを期待しております。

事業全体を通して、学校・家庭・地域の連携を進める重要な取り組みとなりますので、関係諸機関や団体間のつながりを通して、充実した事業となることを願っております。

＜基本方針4 人生100年時代を見据えた生涯学習社会をめざします＞

○藤井委員長　それでは、次に「基本方針4 人生100年時代を見据えた生涯学習社会をめざします」の講評について、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員　基本方針4の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱の事業が前期に比べ目標達成の改善が見られたことを評価いたします。

事業コード412「公民館運営事業」についてですが、コロナの収束により、地域の各組織の活動も少しずつ活性化をしてきたように思います。しかし各組織は、メンバーの高齢化だとか、それに伴う後継者不足だとか、さまざまな問題、課題を抱えています。

公民館は、こういった地域の中でセンター的な役割で、いろいろな組織の事務局をやっていたりして、我々としては本当に助かっています。大変お忙しい状況にあって、これだけ頼っていいのかと思うぐらいで、ある意味、申し訳ないと思いつつも、大変助かっています。

そういったことで、公民館の地域での役割は非常に大きくて、ここにも書いたとおりで、地域の中での各組織のコーディネート機能、そういったものをより充実させて、地域活性化の支援を引き続きしていただければと思います。人が足りないということもありますので、公民館への支援を、よろしくお願ひしたいと思います。

○越 委員　基本方針4の26事業のうち22事業が目標を達成しており、例年C評価が減少していることがわかりました。

そんな中、事業コード446「ふじさわ宿交流館運営事業」と、447の「藤澤浮世絵館運営事業」においては、ここ数年C評価が続いています。評価理由として、いずれも「目標である利用者数を達成できなかった」となっていますが、今後の課題を踏まえた取り組みを見ると、毎年工夫をされ、目標を達成しようという努力うかがえます。一度行ったら満足ということではなく、再来館者が増えるような取り組みがあるとよいと思いました。

○渡邊副委員長　基本方針4の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱を支える事業がきちんと実施されていると評価いたします。

多くの事業が自己評価Bを達成する一方、事業コード441「歴史遺産保存整備活用事業」、446「ふじさわ宿交流館運営事業」、447「藤澤浮世絵館運営事業」などは、目標達成に苦労している様子うかがえます。特に446と447につきましては、感染症対策と両立させながら実現できる入館者数を、もう一度精査することも検討していただきたいと思います。

これらの歴史資料・遺産にかかわる事業において、こうした遺産・資料の保存の重要性は言うまでもありませんし、保存に関して、こうした事業で十分に取り組みがなされていると信じてお

りますが、活用の面で、今どきは、こうした歴史資料に関しましても、その活用の重要性ということは強調されますので、こちらの活用の面に関しても、今までの努力はもちろんですが、あまりにも高過ぎる目標でなかなか届かないことが続くようであれば、現状確認を踏まえて、目標の数値の見直しというのは、一度あってもいいのかなと感じております。

○藤井委員長 全体の 26 事業（全ての担当課対象）中、おおむね目標を達成した事業（自己評価B）が 22 事業となっており、各施策の柱を支える事業が順調に進められていることがわかりました。

昨年度、自己評価Cだった事業が自己評価Bとなったもののうち、「コロナ以前の状態に戻るだけでなく、ポストコロナに合わせた新しい開催方法を検討する方向」という記載があり、それはとても大切だと感じました。

今後も、コロナ禍で培った方法を活用しつつ、事業を多様に実施することを通して、多様な人々が学ぶことができる環境が充実していくことを期待しております。

<基本方針5 すべての子ども・若者への学びのセーフティーネットを構築します>

○藤井委員長 それでは、次に「基本方針5 すべての子ども・若者への学びのセーフティーネットを構築します」の講評について、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員 基本方針5の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱の事業がおおむね目標を達成されていることを評価いたします。

事業コード 515「幼児教育振興助成事業」から、事業コード 518「幼稚園等預かり保育推進事業」について、女性の社会進出が増える中、共働き家庭の育児の環境は、経済的にも大変厳しいものになってきました。上記、諸事業による保護者への負担軽減を図ることは必要不可欠であると思います。

こういった預かり施設への経済的な支援とともに、そういったところを運営する人材の育成、これにもぜひ支援をお願いしたいと思います。

○越 委員 基本方針5の 20 事業のうち 19 事業が目標を達成しており、一つ一つの事業が丁寧に進められていることがわかりました。

事業コード 522の「技能職業体験事業」では、6つの技能団体が市内5校の中学校を訪問し、コロナ禍で中止になっていた技能の披露や体験教室を実施されたことが確認できました。

また、施策の柱である「子ども・若者の社会的な自立を支援する教育の推進」ということで、コロナ前には中学校で「職業体験」という授業がありました。地域の商業施設や企業、保育園など、さまざまな職場で勤労や職業について学び、子どもたちにはとても大きな影響を与えてくださったと思っています。

しかし、そのためには、協力してくださる地域や企業が必要となります。522の「技能職体験事業」でも課題となっている「協力可能な団体が減少している」ということから、協力団体を増やすための検討を続けてください。

○渡邊副委員長 基本方針5の事業実績全般を踏まえて、各施策の柱を支える事業がきちんと実施されていると評価いたします。

多くの事業で自己評価Bを達成し、自己評価Cだった事業コード 526「自立支援推進事業（就

労支援)」についても、就労・増収者の目標を達成できなかったとは言え、数値自体は昨年度を上回っており、引き続き若者の自立につながる支援をお願いしたいと思います。

外国につながりがある市民が増えている状況を踏まえれば、共生社会を目指す事業の重要性が一層増すことと考えられますので、この基本方針5に含まれます事業の、今後の継続的な取り組みを期待いたします。

○藤井委員長 全体の20事業中、おおむね目標を達成した事業（自己評価B）が19事業となっております。各施策の柱を支える事業が順調に進められていることがわかりました。

昨年度、自己評価Cだった事業の一つは、自己評価Bとなり、藤沢にかかわりのある6つの技能職団体が、中学校で体験教室などを行ったことがわかりました。

この基本方針5は、学びに向かうための背景を支援することにかかわると思いますので、各事業の実施を希望する学校や、利用者などが事業に参加できる準備や環境を整えて取り組むことが大切だと思います。

今後も、全ての子どもが安心して学びへ向かえるように、各事業が充実することを期待しております。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○藤井委員長 皆様、ありがとうございました。

これで、5つの基本方針について、各委員からの講評が終了しましたが。追加でご発言のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(発言等：なし)

それでは、教育委員会各課におかれましては、各委員からの講評を踏まえ、引き続き総合的に推進いただきますよう、お願いいたします。

(3) 教育委員会への総括的講評

○藤井委員長 次に議題(3)「教育委員会への総括的講評」に移ります。資料の17ページになります。

各委員から順番に、今回の点検・評価を通して感じたことなど、教育委員会に対する総括的講評をさせていただきます。まず、安藤委員からお願いいたします。

○安藤委員 第3期の計画も、残すところ今年度を含めて2年間ということで、この間、コロナ禍などの予測できない影響を受けながらも実施されてきました。コロナ禍の影響が極力少なくなるように、また回復するよう努力されていた様子が全般的によく感じられました。

コロナ禍の影響は、まだまだ当面続く中、各事業の実施は、まだまだ困難を伴うと思いますけれども、事業それぞれの成果の確認や課題の整理も、そろそろ行って、次期基本計画が策定されるとしたら、それにつなげていけるような課題の整理等もよろしくお願ひしたいと思います。

また、もう一つは、各事業が機会を捉えてさまざまな場所で市民に紹介されて、こういうことをやっております、ということの理解が進むことを期待しております。

私どもは、評価委員をやりましたので、これだけの事業が行われていることがよくわかりましたけれども、市民の皆さんにとってみれば、自分にかかわる以外のことは、なかなかかわからないと思いますので、市民の皆さんに、こういった課題、事業を進めているんですよ、ということ

わかりやすく説明していただくことが、これからの事業を進めるに当たってもいいことではないかと思っておりますので、そういった視点もぜひ忘れずにやっていただければと思います。

○越 委員 今年度、評価委員として初めてかかわらせていただき、たくさんの事業が、基本方針、そして施策の柱をもとにしっかりと実施されていることがわかりました。

また、子どもたちの教育に関連する事業も多く、各事業に携わっている方々に感謝いたします。

今回の重点事業（145、231、531-1）の実績報告の前に報告書や資料などを事前に準備してくださったおかげで、こちら質問内容についてゆっくりと考えることができました。そして、質疑応答では、一つ一つわかりやすく回答していただき、その回答を聞き、具体的な事業内容の見直しや、事業の成果向上のため、進めておられることがわかりました。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症になり、ここ2、3年に比べると、今後の実施の幅も広がっていくことが予想されます。コロナ禍で見えてきた「必要なもの、そうでないもの」を吟味し、各事業がそれぞれの目標を達成することを期待します。

評価委員に携わることで、子どもは家庭だけで育っているのではなく、学校・地域・家庭の連携のもと、多くの方々に支えられ育っていることを、改めて実感いたしました。

今後も、各課の事業実績が藤沢市民の豊かな学びの場につながるよう、願っています。

○渡邊副委員長 本年度も評価委員としてかかわることとなりました。令和4年度の事業を振り返りますと、令和3年度には目標未達となっていた事業の多くが目標を達成し、新型コロナウイルス感染症の流行から、社会がコロナ前の状況へ戻ろうとする様子が確認できました。

とは言え、感染症も完全に克服されたとは言いがたい状況ですから、今後も、流行の波が繰り返されることが予想されます。感染症対策と必要な事業の両立を、今までの経験を生かしつつ、実現していってほしいと思います。

重点事業の評価については、こちらの質問に対し、各課から多くの情報を回答していただくことができ、事業に対する理解を深めることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

いじめ防止にかかわる事業では、生徒たち自身が積極的に取り組んでいることを知ることができました。「藤沢市を担う次世代を育てる」という観点から、不十分な点がまだあるとは言え、重要な取り組みだと思いますので、今後にも期待したいと思います。

先述したように、総じてコロナ前の実施状況に戻そうとしている状況だと思っておりますが、対面での取り組みが増えるにつれて、事業にかかわる人材・時間の確保が問題となることが予想されます。ワーク・ライフ・バランスにもかかわる問題ですので、市民の働き方に関する啓発も含めた施策の実施を期待いたします。

○藤井委員長 今年度の教育振興基本計画評価委員会は、昨年度と同様、第1回で3つの重点事業（事業コード145、231、531-1）について、対面での説明及び質疑を行いました。また、昨年度と同様、第1回委員会開催前に、報告書と各課より関連資料を提出していただき、それらから取り組みの詳細を知ることができました。

第1回委員会におきましては、質疑応答を通して、各事業の内容を具体的に知ることができ、各事業が適切に運営されていることがわかりました。

また、事業対象者を拡大していく取り組みや、課題の把握は、それまで見えなかった問題や対

象があらわれてくることにつながると予想されるため、とてもよい方向であると思っております。

各事業は、昨年度に比べると、目標の達成がおおむね実現されており、コロナ禍の影響が少なくなるとともに、実施方法の工夫がなされていると、とても感じました。

各事業の自己評価のつけ方についてですが、目標達成ができていなくても、前年度比で増加していればCからBへ変化した事業もあれば、目標を達成していないということでCのままの事業もありました。

自己評価のつけ方は、それぞれの事業ごとでいいとは思いますが、事業目的に資する取り組みが拡大し充実していれば、それに応じた評価をしてもいいように思いました。

今後も、変化に応じながら、各事業の多様なアプローチの実施を確実なものとし、より包括的な事業運営を通して、藤沢の子どもを含めた市民の教育学習環境が充実することを願っております。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○藤井委員長 皆様、ありがとうございました。

これで、議題は最後になりますが、追加でのご発言はいかがでしょうか。

(発言等：なし)

それでは、これで議事を終了したいと思います。

<藤井委員長挨拶>

○藤井委員長 最後に今年度の評価委員会を振り返り、委員長として、一言挨拶をさせていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。

今年度の、各委員からのさまざまな質問に、各課から丁寧にお答えをいただきまして、本当に感謝申し上げます。

今年度につきましては、さまざまな事業が、コロナ禍の影響を受けにくい形での実施方法を検討され、目標の達成度が昨年度よりも高くなっていたと感じます。それらの取り組みを継続していただきまして、今後も社会状況に応じながら、この培った方法を維持しながら、実施していただけたらと思っております。

さまざまな問題の発見もあるかと思しますので、そのような新しい課題への対応ということも視野に入れながら、進めていただけたらと思えます。

今後も、藤沢の子どもたちや市民の皆様、かかわるそれぞれの人々が、より充実して事業が実現されて、その影響がより大きくなっていくことを願っております。

どうもありがとうございました。

3 その他

○藤井委員長 それでは、「その他」に移ります。

今後の流れについて、事務局からお願いいたします。

○事務局（近藤指導主事） ありがとうございました。

今回、評価をしていただきました内容につきましては、「令和5年度（令和4年度実績）藤沢市教育委員会の点検・評価報告書」としてまとめてまいります。

完成しました報告書は、8月17日に開催予定の、「藤沢市教育委員会定例会」の議案とし、9月藤沢市議会定例会の決算資料として提出をいたします。

また、併せて藤沢市ホームページにおいても公開をする形となります。

今後の流れについて、事務局からは以上でございます。

○藤井委員長 事務局からの説明が終了しました。

皆様、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、以上をもちまして、「藤沢市教育振興基本計画評価委員会」を終了いたします。

ありがとうございました。

進行を事務局にお戻しいたします。

○峯 教育部長 藤井委員長、会議の進行、どうもありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、重点事業、そして基本方針に対しまして、真摯なご対応、そしてご評価をいただきまして、まことにありがとうございました。

<岩本教育長 挨拶>

○峯 教育部長 それでは、閉会に当たりまして、岩本教育長からご挨拶を申し上げます。

○岩本教育長 教育長の岩本でございます。

委員の皆様には、猛暑の折、また、大変お忙しい中、前回の第1回、そしてきょうの第2回と会議にご出席をいただきまして、ありがとうございました。

それぞれのお立場から、教育振興基本計画の振興管理、また、教育委員会の点検・評価に大変丁寧にご質問、ご意見、そしてきょうは講評をいただきまして、本当に感謝を申し上げます。

令和2年度からスタートいたしましたこの3期計画でございますけれども、ことしが4年目ということで、来年は最終年を迎えるということでございます。

本日いただきましたご講評をしっかりと受けとめまして、来年度に向けて、これまでの実績や今後の方向性を確認して、計画を推進してまいりたいと考えております。

また、来年度は、令和7年からスタートいたします第4期計画の策定の年に当たります。策定委員会を立ち上げる予定でございます。

委員の皆様におかれましては、今後とも本市の教育行政、また教育委員会を見守っていただきまして、また、ご指導、アドバイスをいただければありがたいと思っております。

大変簡単ではございますが、御礼の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

○峯 教育部長 教育長、ありがとうございました。

4 閉 会

○峯 教育部長 それでは、以上をもちまして、第2回の評価委員会を終了させていただきます。

皆様、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

○一同 ありがとうございました。

午後4時06分 閉会